

計算書類に対する注記(法人全体用)

1. 継続事業の前提に関する注記
継続事業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況はない。
2. 重要な会計方針
 - (1) 固定資産の減価償却の方法
 - ・建物、構築物、器具及び備品、ソフトウェア・・・定額法
 - (2) 引当金の計上基準
 - ・賞与引当金
職員の次期賞与の支給に備えるため、次期賞与支給額のうち当期帰属分を賞与引当金として計上している。
3. 重要な会計方針の変更
該当なし
4. 法人で採用する退職給付制度
退職給付制度は、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉施設職員等退職手当共済制度によっている。
5. 法人が作成する計算書類と拠点区分、サービス区分
当法人の作成する計算書類は以下のとおりになっている。
 - (1) 法人全体の計算書類(会計基準省令第1号第1様式、第2号第1様式、第3号第1様式)
 - (2) 各種内訳表(会計基準省令第1号第2様式、第2号第2様式、第3号第2様式)は省略している。
 - (3) 社会福祉事業における拠点区分別内訳表(会計基準省令第1号第3様式、第2号第3様式、第3号第3様式)
 - (4) 公益事業における拠点区分別内訳表(会計基準省令第1号第3様式、第2号第3様式、第3号第3様式)
当法人では、公益事業を実施していないため作成していない。
 - (5) 収益事業における拠点区分別内訳表(会計基準省令第1号第3様式、第2号第3様式、第3号第3様式)
当法人では、収益事業を実施していないため作成していない。
 - (4) 各拠点区分におけるサービス区分の内容
 - ア 本部拠点(社会福祉事業)
 - 「本部」
 - イ 木の美こども園拠点(社会福祉事業)
 - 「木の美こども園」
6. 基本財産の増減の内容及び金額
基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。(単位:円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	34,300,000	0	0	34,300,000
建物	97,584,874	87,390,600	5,898,899	179,076,575
合 計	131,884,874	87,390,600	5,898,899	213,376,575
7. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩
該当なし
8. 担保に供している資産
担保に供されている資産は以下のとおりである。

土地(基本財産)	16,000,000円
建物(基本財産)	94,980,709円
計	110,980,709円

 担保している債務の種類および金額は以下のとおりである。

設備資金借入金(1年以内返済予定額を含む)	18,432,000円
計	18,432,000円
9. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は以下のとおりである。(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物(基本財産)	205,761,781	26,685,206	179,076,575
建物	2,794,390	1,723,994	1,070,396
構築物	11,055,065	3,180,046	7,875,019
器具及び備品	10,375,596	5,007,920	5,367,676
合 計	229,986,832	36,597,166	193,389,666
10. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高
債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。(単位:円)

科 目	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
事業未収金	675,120	0	675,120
未収補助金	0	0	0
合 計	675,120	0	675,120
11. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
該当なし
12. 関連当事者との取引内容
該当なし
13. 重要な偶発債務
該当なし
14. 重要な後発事象
該当なし
15. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項
該当なし

計算書類に対する注記(本部拠点区分用)

1. 重要な会計方針
該当なし
2. 重要な会計方針の変更
該当なし
3. 採用する退職給付制度
該当なし
4. 拠点が作成する計算書類等とサービス区分
当拠点区分において法人の作成する計算書類は以下のとおりになっている。
(1) 本部拠点計算書類(会計基準省令第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式)
(2) 拠点区分資金収支明細書(別紙3⑩)はサービス区分がひとつの拠点区分のため省略している。
(3) 拠点区分事業活動明細書(別紙3⑪)は省略している。
5. 基本財産の増減の内容及び金額
該当なし
6. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩
該当なし
7. 担保に供している資産
該当なし
8. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
該当なし
9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高
該当なし
10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
該当なし
11. 重要な後発事象
該当なし
12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項
該当なし

計算書類に対する注記(木の実こども園用)

1. 重要な会計方針
 - (1) 固定資産の減価償却の方法
 - ・建物、構築物、器具及び備品、ソフトウェア・・・定額法
 - (2) 引当金の計上基準
 - ・賞与引当金
職員の次期賞与の支給に備えるため、次期賞与支給額のうち当期帰属分を賞与引当金として計上している。
2. 重要な会計方針の変更
該当なし
3. 採用する退職給付制度
退職給付制度は、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉施設職員等退職手当共済制度によっている。
4. 拠点が作成する計算書類等とサービス区分
当拠点区分において法人の作成する計算書類は以下のとおりになっている。
 (1) 木の実こども園拠点計算書類(会計基準省令第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式)
 (2) 拠点区分資金収支明細書(別紙3⑩)はサービス区分がひとつの拠点区分のため省略している。
 (3) 拠点区分事業活動明細書(別紙3⑪)は省略している。
5. 基本財産の増減の内容及び金額
基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

(単位:円)

基 本 財 産 の 種 類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	34,300,000	0	0	34,300,000
建物	97,584,874	87,390,600	5,898,899	179,076,575
合 計	131,884,874	87,390,600	5,898,899	213,376,575

6. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩
該当なし
7. 担保に供している資産
担保に供されている資産は以下のとおりである。

土地(基本財産)	16,000,000円
建物(基本財産)	94,980,709円
計	110,980,709円

 担保している債務の種類および金額は以下のとおりである。

設備資金借入金(1年以内返済予定額を含む)	18,432,000円
計	18,432,000円

8. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は以下のとおりである。(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物(基本財産)	205,761,781	26,685,206	179,076,575
建物	2,794,390	1,723,994	1,070,396
構築物	11,055,065	3,180,046	7,875,019
器具及び備品	10,375,596	5,007,920	5,367,676
合 計	229,986,832	36,597,166	193,389,666

9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高
債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。(単位:円)

科 目	債権額	徴収不能引当金の当期末残高	債権の当期末残高
事業未収金	675,120	0	675,120
未収補助金	0	0	0
合 計	675,120	0	675,120

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
該当なし
11. 重要な後発事象
該当なし
12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項
該当なし